


2012年3月期 決算説明会



2012年5月8日

 **TOYOTA** 株式会社 豊田自動織機

I. 決算サマリー

業績

2012年3月期 実績

(単位:億円)

	11/3期	12/3期	増減	増減率
売上高	14,798	15,433	635	4.3%
営業利益	687	700	13	1.9%
経常利益	739	808	69	9.4%
当期純利益	472	585	113	24.1%

業績

2013年3月期 予想

(単位:億円)

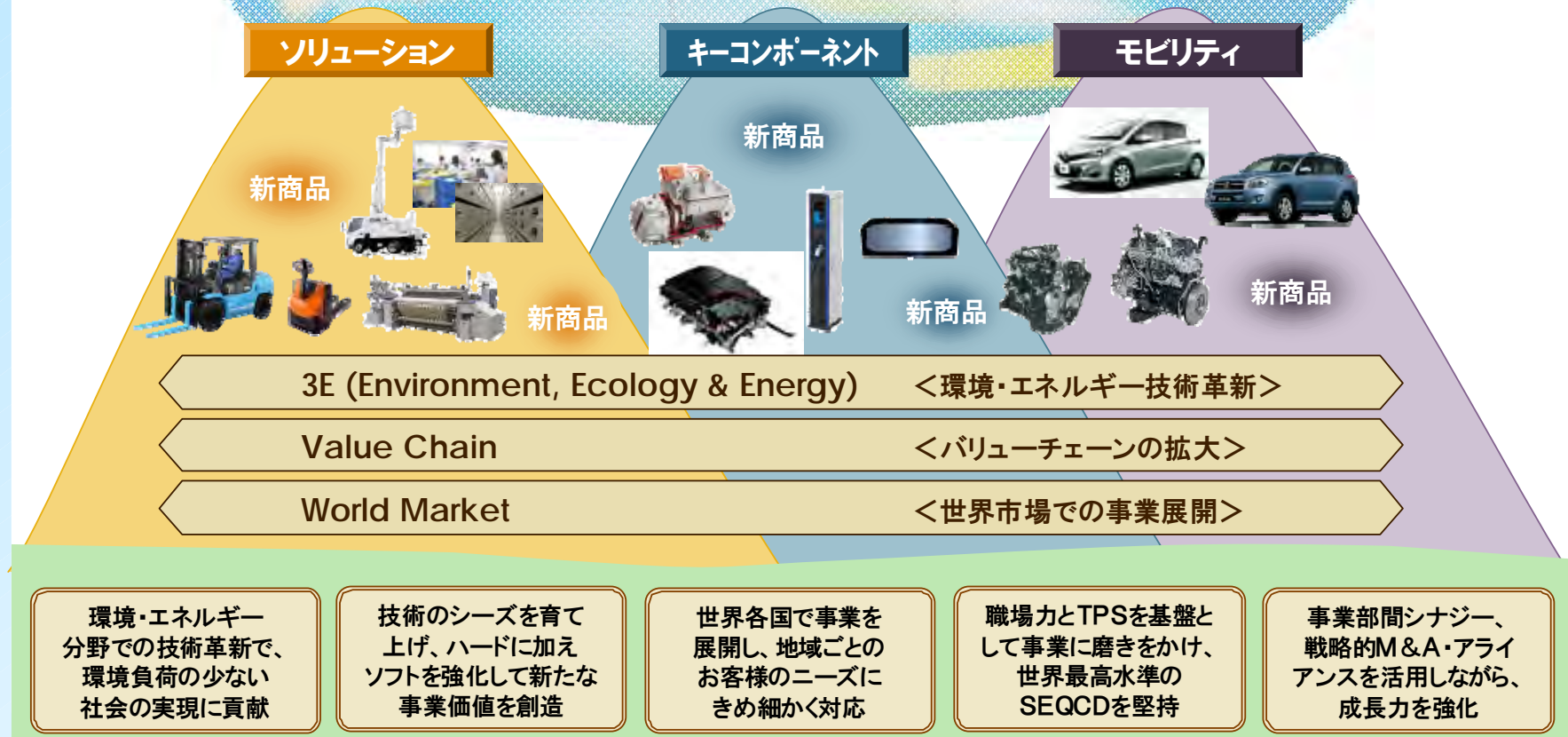
	12/3期	13/3期	増減	増減率
売上高	15,433	16,500	1,067	6.9%
営業利益	700	850	150	21.3%
経常利益	808	930	122	15.0%
当期純利益	585	590	5	0.7%

Ⅱ. 中期経営計画をスタート

2020年ビジョン

お客様のニーズを先取りする商品・サービスを継続的に提供することにより、世界の産業・社会基盤を支え、豊かな生活と温かい社会づくりに貢献する

世界の人々の豊かな生活、温かい社会づくり



中期経営計画をスタート

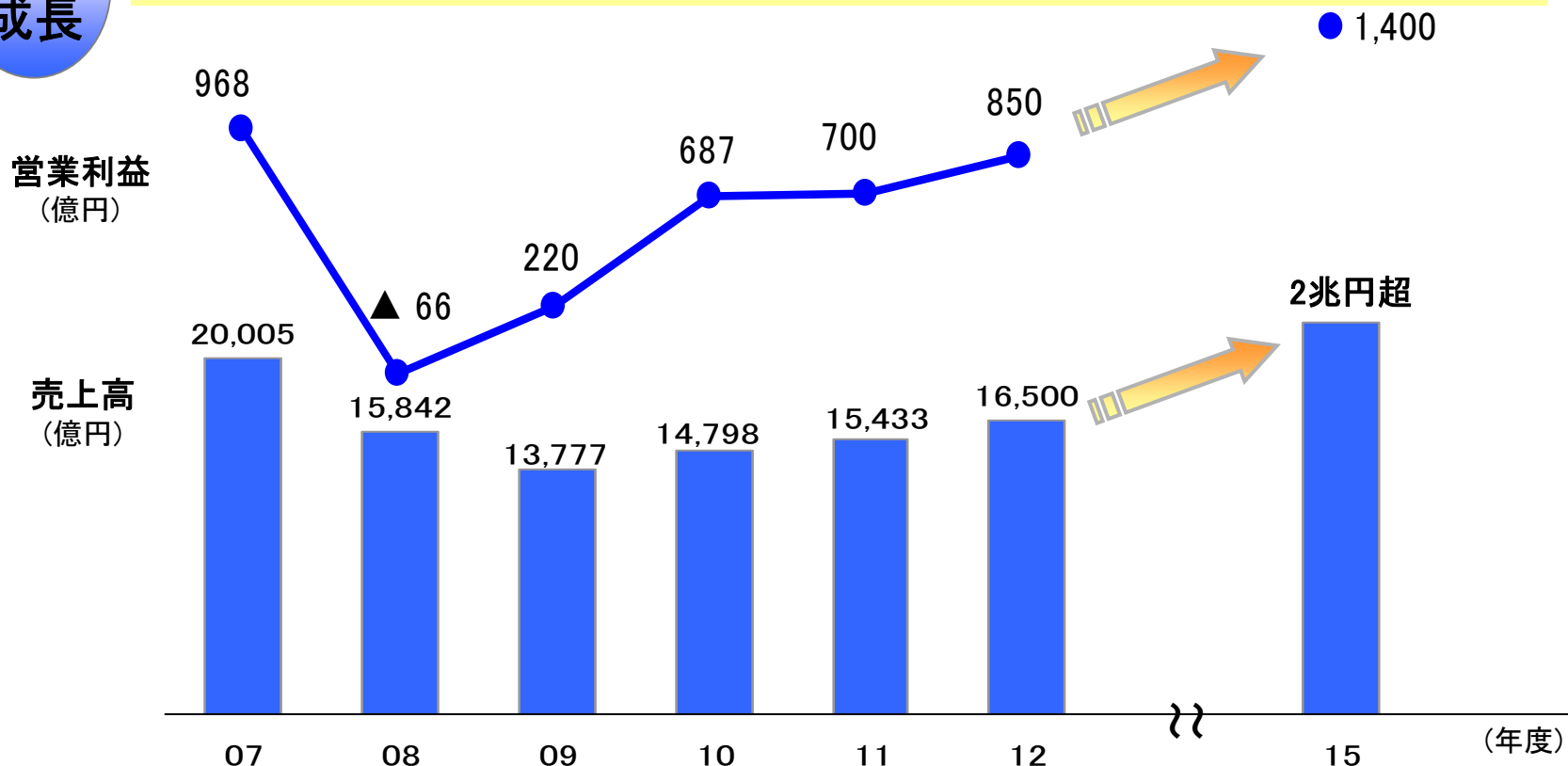
復活

- ・リーマンショック以降、収益改善の取り組みを継続し、体質を強化
- ・震災やタイの洪水による影響など、様々な難局を乗り越え、「復活」

大きな変化や危機が常態化する「混沌」の時代

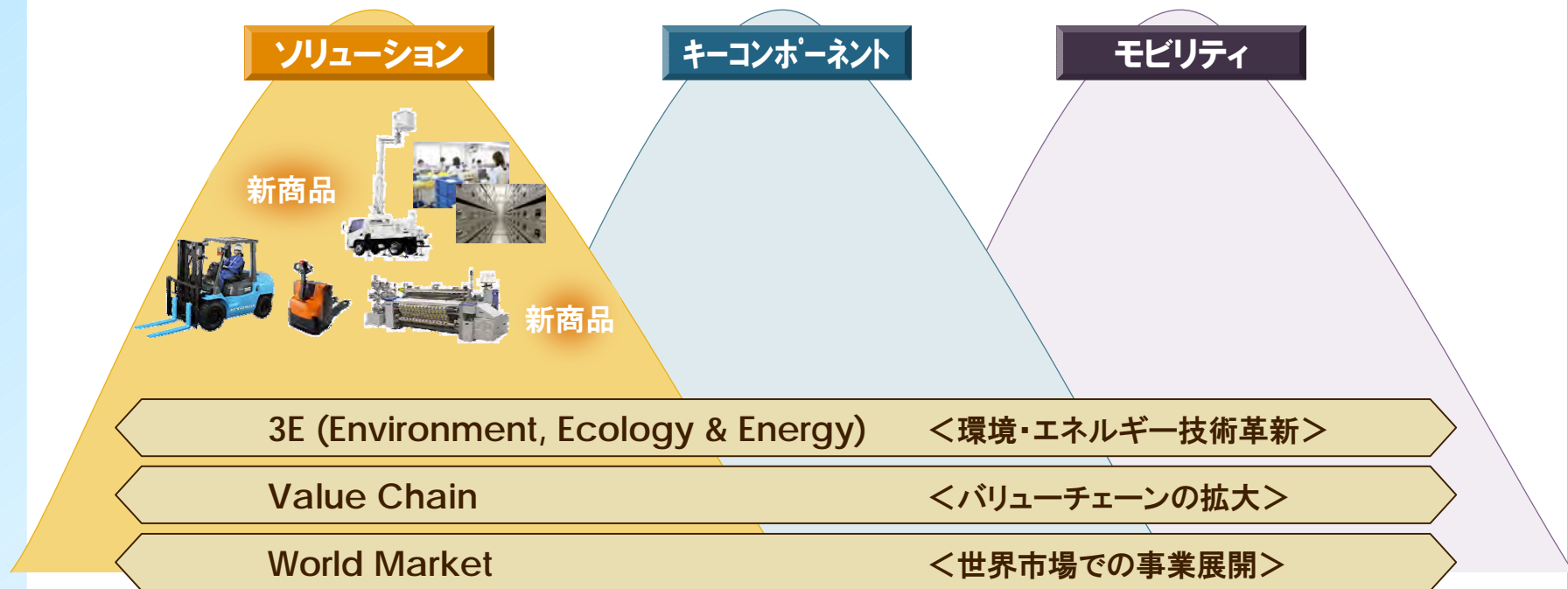
自立
成長

- ・「自立」し、さらなる「成長」をめざす



Ⅲ. 事業の取り組み

ソリューション



市場ニーズは
地域ごとに多様化

価格競争の激化

市場ニーズに対応しつつ、価格競争力を向上させるため
グローバルモデルを投入

- ◆ プラットフォームを共通化し、地域ごとのニーズに合わせてモジュール化
- ◆ 部品の共通化、生産地や部品調達先の最適化も合わせて実施し、価格競争力を向上
- ◆ 3E技術開発による燃費、電費の向上

機種 8 FBN (1.5～3.0トン積み 電動車)

生産地 中国


販売先 2011年5月 中国向けに投入

2012年1月 ALOMA* 市場へも投入

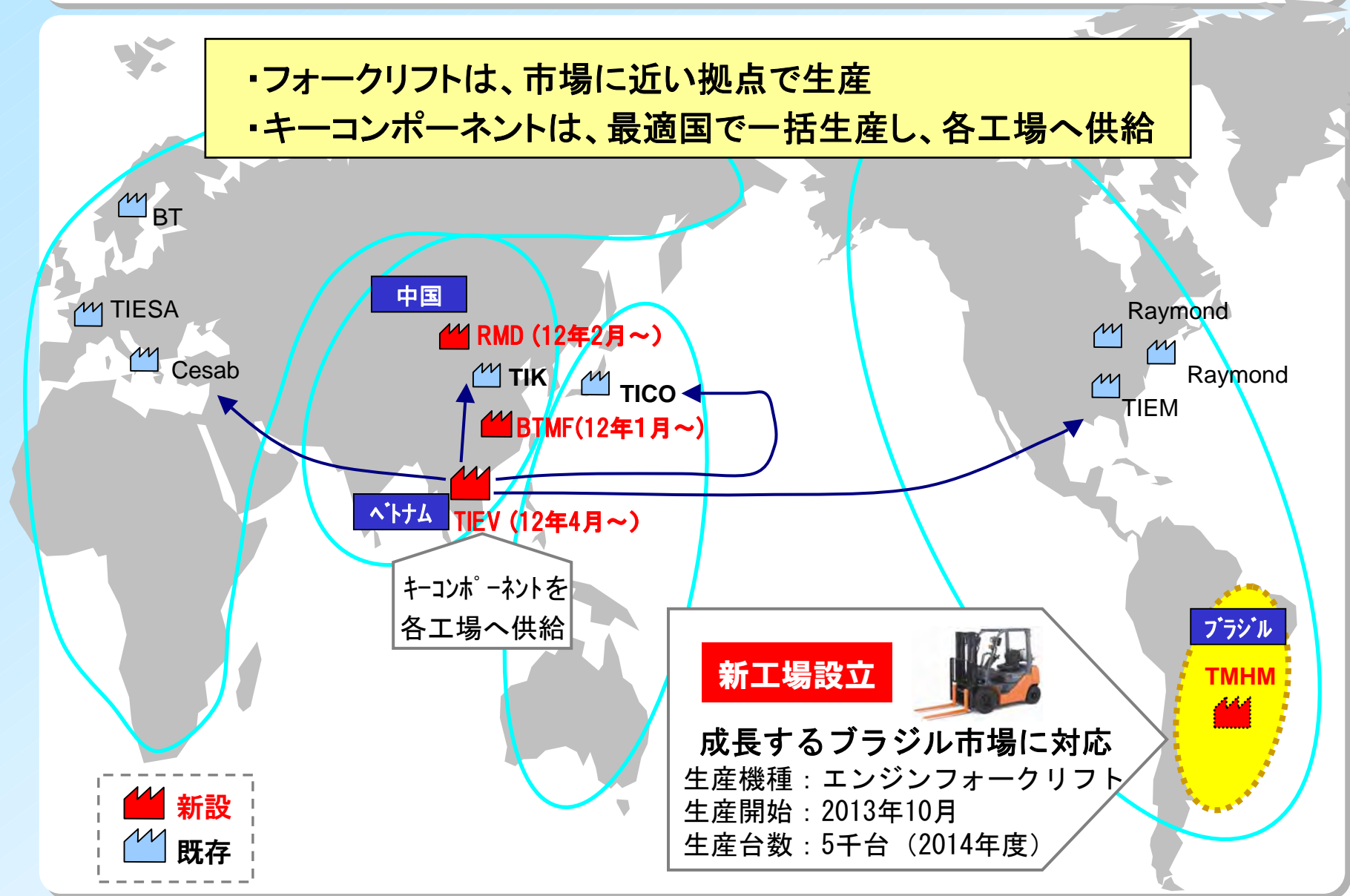
* Asia、Latin America、Oceania、Middle East、Africa



今後さらに機種・販売先
両面での拡大を検討

<p>先進国</p>	<p>バリューチェーンの拡大</p> <p>北米 有力販売店の直営化 2007年以降 9社</p> <p>欧州 販売チャネルの統合(直営化) 2006年以降 29カ国</p> <p>・幅広い商品ラインナップを活用した拡販を展開 ・サービスなどを含めバリューチェーン全体での収益の向上をはかる</p>
<p>新興国</p>	<p>販売網の強化</p> <p>中国 合併販売会社の 設立・営業開始 2011年9月</p> <p>インド 販売・サービス会社の 設立・営業開始 2011年5月</p> <p>サービス機能の強化による拡販</p> <p>グローバル・トレーニングセンターを核に サービス・トレーナーの育成プログラムを 各国に展開</p> <p></p> <p>ALOMA地域の サービストレーナー 向け実技教育</p> <p>・需要増をとらえた販売網強化により、販売台数を伸ばす ・生産財にとって重要なサービス品質での差別化をはかる</p>

- ・フォークリフトは、市場に近い拠点で生産
- ・キーコンポーネントは、最適国で一括生産し、各工場へ供給



 新設
 既存

新工場設立



成長するブラジル市場に対応
生産機種：エンジンフォークリフト
生産開始：2013年10月
生産台数：5千台（2014年度）

スイスのウースター社を子会社化し、事業の連携を一層強化

豊田自動織機の強み

- ・世界No.1シェア*のエアジェット織機
- ・長年の経験とノウハウを有する紡機

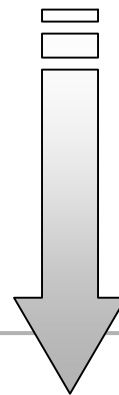


ウースター社の強み

- ・全世界の糸品質の基準を自社で規格化
- ・高度なセンサー技術、情報処理技術



シナジー



当社の商品開発にウースター社の技術を活かすことにより、商品力をさらに強化

<ウースター社の概要>

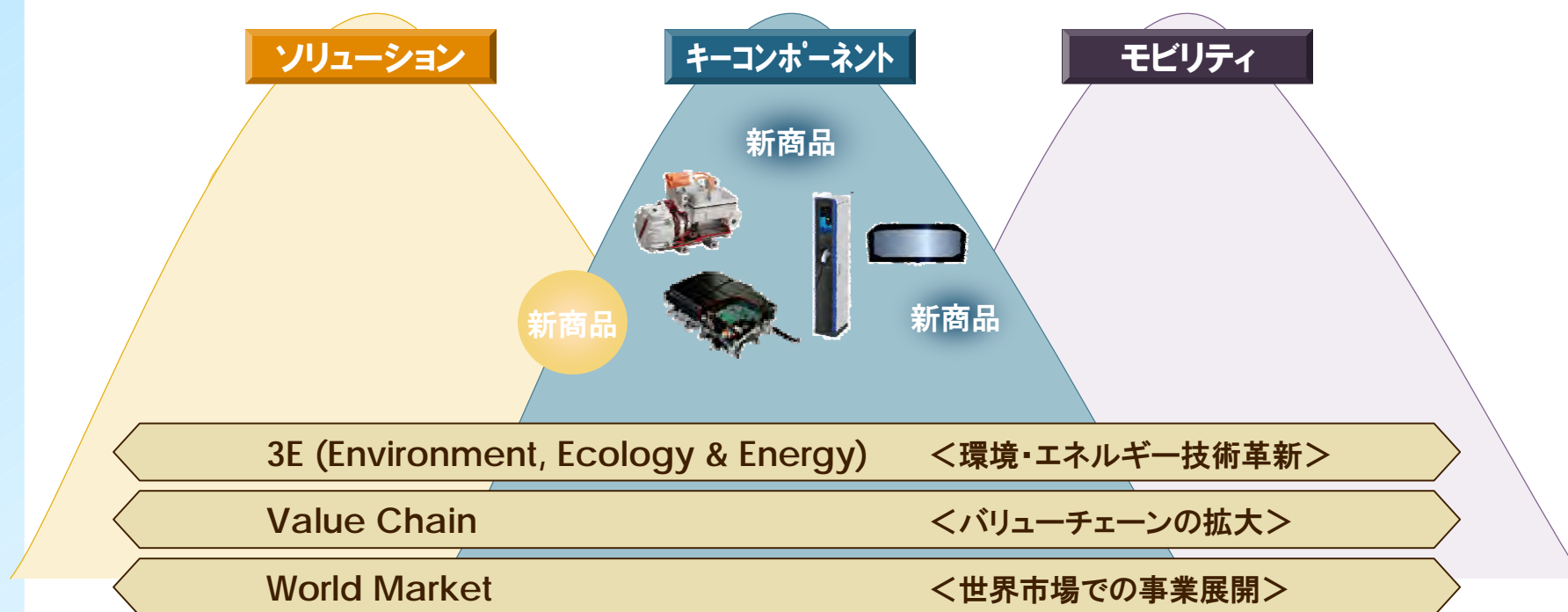
- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 1. 社名 | : Uster Technologies AG |
| 2. 所在地 | : スイス、チューリッヒ州ウースター |
| 3. 主な事業内容 | : 紡績糸品質測定機器、綿花格付機器の開発・生産・販売 |
| 4. 連結売上高 | : 188百万スイスフラン (約160億円) |
| 5. 連結純利益 | : 36百万スイスフラン (約 31億円) |
- (2011年12月期)

* 自社調べ

* 為替レートは1スイスフラン=85円で換算

Ⅲ. 事業の取り組み

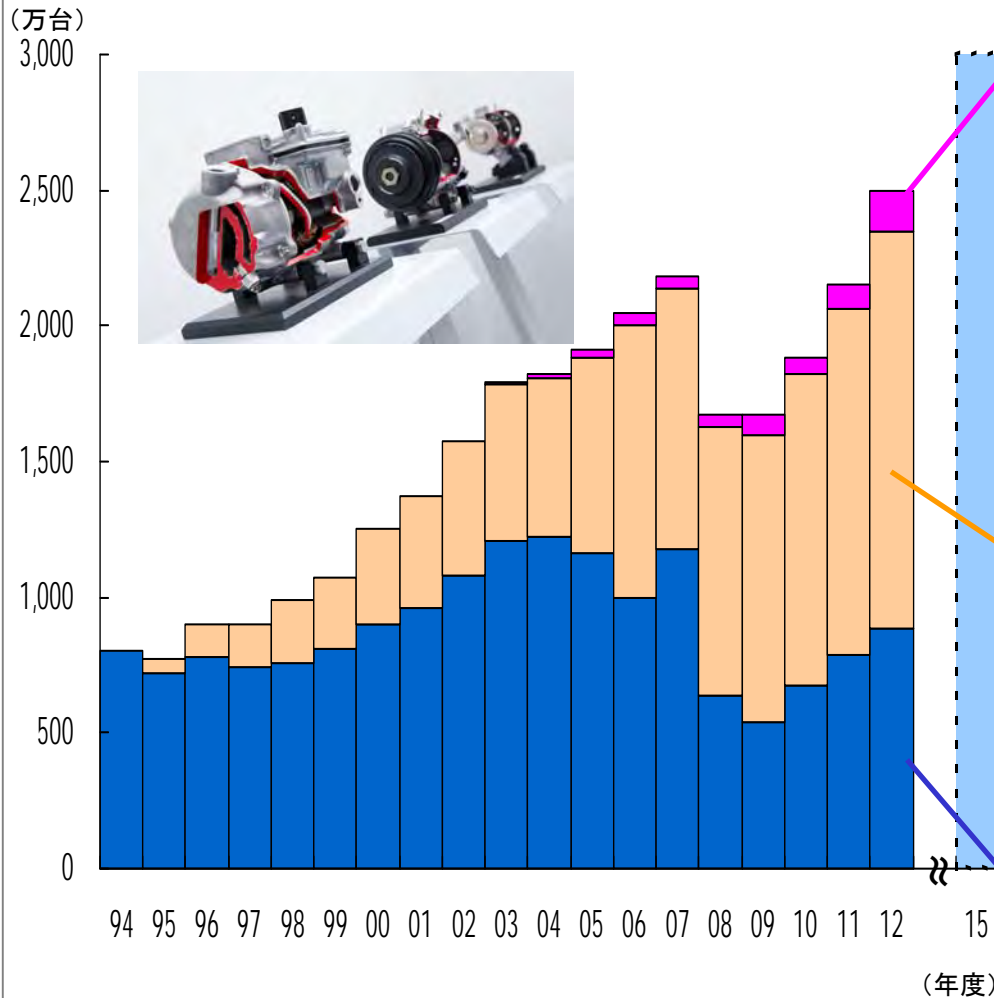
キーコンポーネント



キーコンポーネント／コンプレッサー

3Eを軸とした開発の取り組み

当社コンプレッサの販売台数



電動タイプ	
市場	・カーメーカー各社がHV、EV開発を加速
当社対応	◆ 小型化・軽量化・静粛性の一層の向上

可変容量タイプ	
市場	・先進国での燃費規制強化 ・新興国でも徐々に需要が増加
当社対応	◆ 省燃費性能での競争力を一層向上 ◆ 機能と価格の最適化を推進

固定容量タイプ	
市場	・アセアンやインドなどで根強い需要
当社対応	◆ 信頼性の一層の向上 ◆ 価格競争力の強化

市場ニーズの変化・需要増への対応

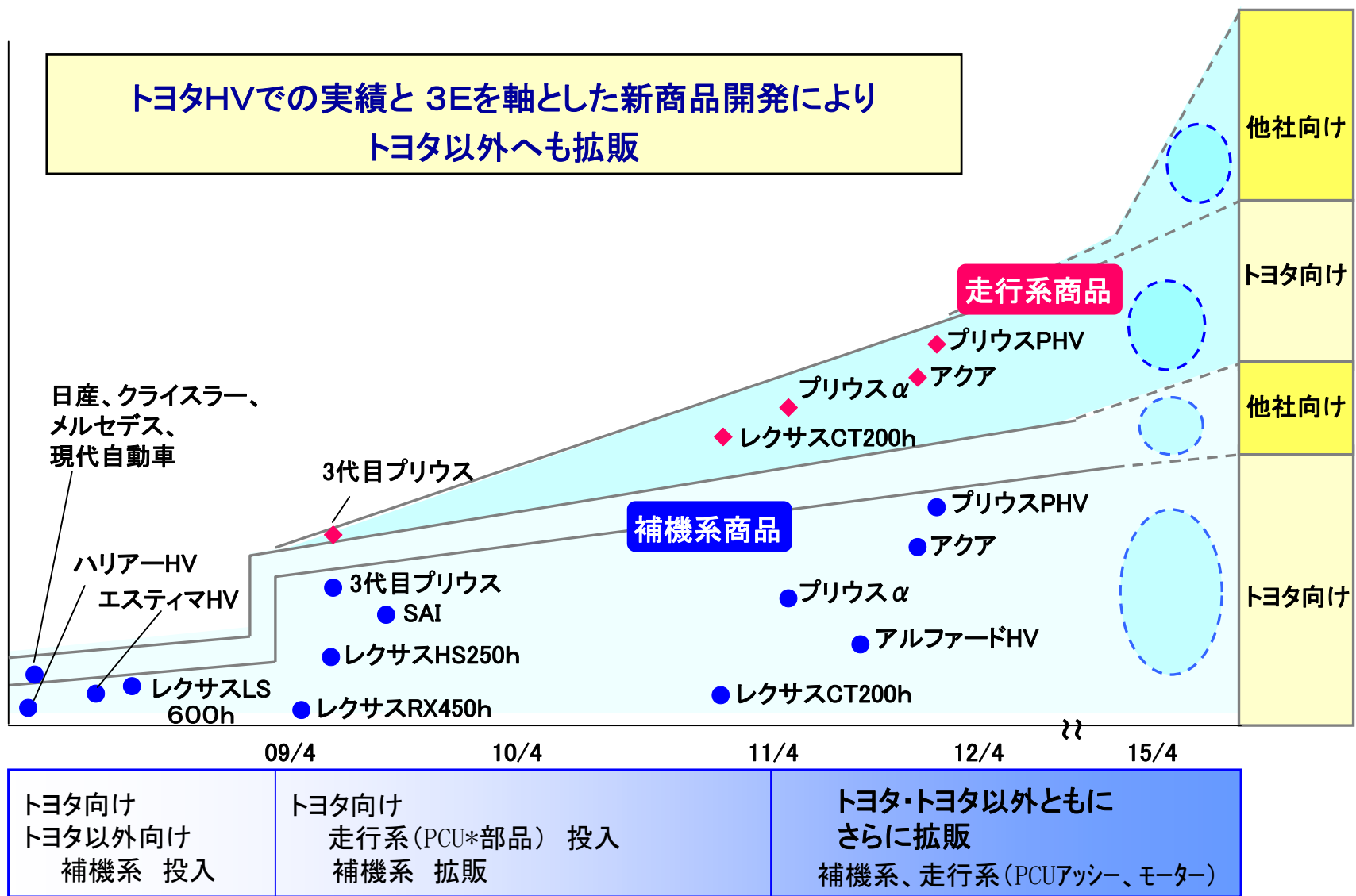
	市場の動向	当社の対応
北米	燃費規制強化に伴う 可変タイプのニーズ 拡大	1) 固定タイプから可変タイプへのニーズの変化に対応 ・固定タイプ専用工場 の可変化、生産能力増強 ・可変タイプ専用工場 での生産能力増強 2) 為替フリーをめざした現地調達率の向上 ・可変タイプの部品生産会社を設立（2013年9月生産開始）
欧州	新興国への輸出等 により、需要が拡大	1) ドイツ生産拠点の生産能力増強 2) 現地調達率の向上
アセアン	自動車市場の拡大が 継続	1) インドネシア生産拠点の生産能力増強 2) 小型固定タイプの集中生産拠点化 3) 現地調達率の向上
中国	地場カーメーカーの 品質重視の動き	1) 外資系に加え、地場カーメーカーへの拡販活動の強化 2) 中国生産拠点の生産能力増強 3) 現地調達率の向上



【主要なカーメーカーの組立工場がある地域内で、コンプレッサー生産・供給体制を構築】

1) 為替フリー体制の構築

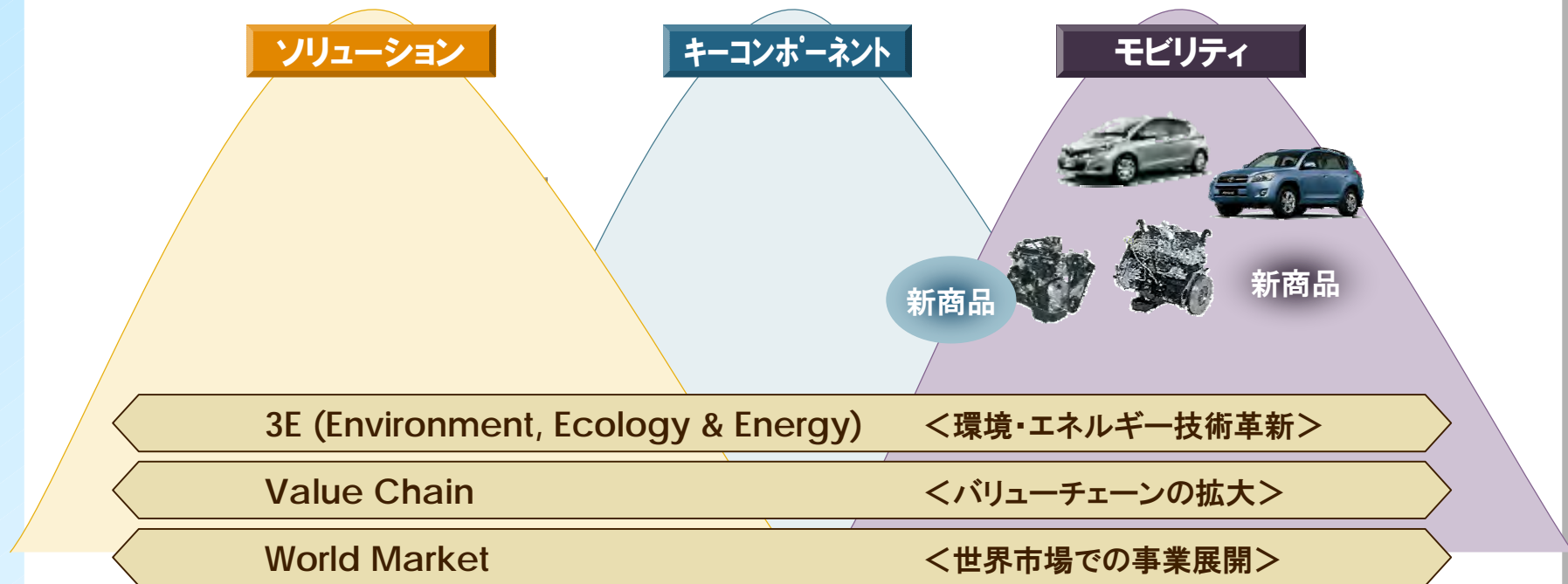
2) 納入リードタイムの短縮



*: Power Control Unit

Ⅲ. 事業の取り組み

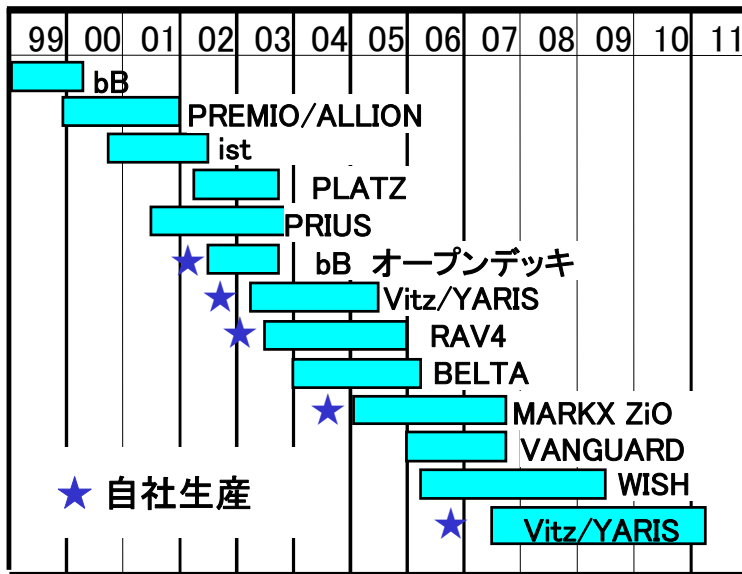
モビリティ



車 両

◆開発～生産までスルーでの取り組み

【これまでの開発車種】



生産に加え、開発の分野でも
多くの車種を担当

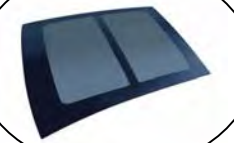
開発から生産までスルーで行うことにより
トータルで QCD を一層向上

◆生産における強み

- ・オールトヨタトップレベルのQ・C・D
- ・短期間での生産立ち上げ
- ・生産量・車種ともにフレキシブルな生産体制

生産面の強みをさらに磨き、トヨタグループ
のユーティリティ工場としての役割を強化

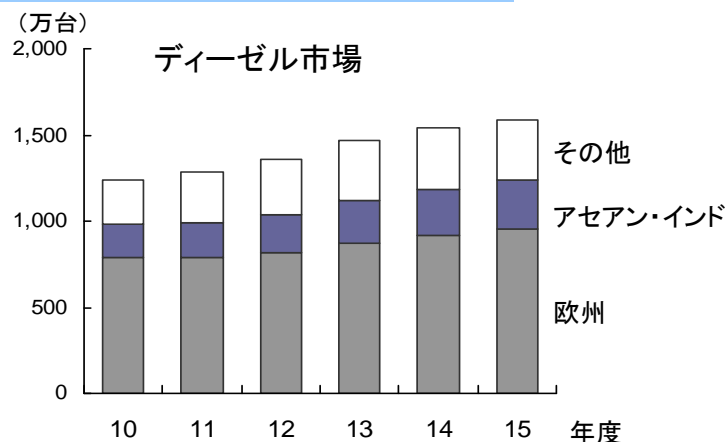
部 品



2011年5月、当社樹脂ウインドウを
プリウスαにパノラマルーフとして搭載

車種、搭載部位の拡大をはかり、
車体の軽量化に貢献

自動車用ディーゼルエンジン



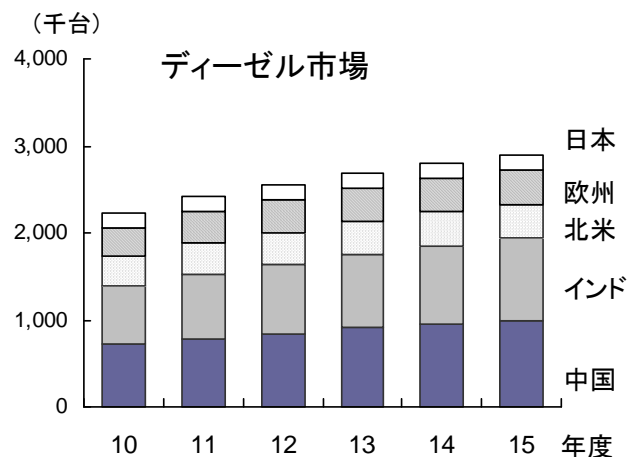
市場の動向

- ・欧州およびアセアン・インドなどの新興国を中心に拡大

当社の対応

- ・開発力を強化し、量産エンジンの開発を確実に実施

産業用ディーゼルエンジン



市場の動向

- ・中国・インドなどにおいて、機械化の進展を中心に拡大

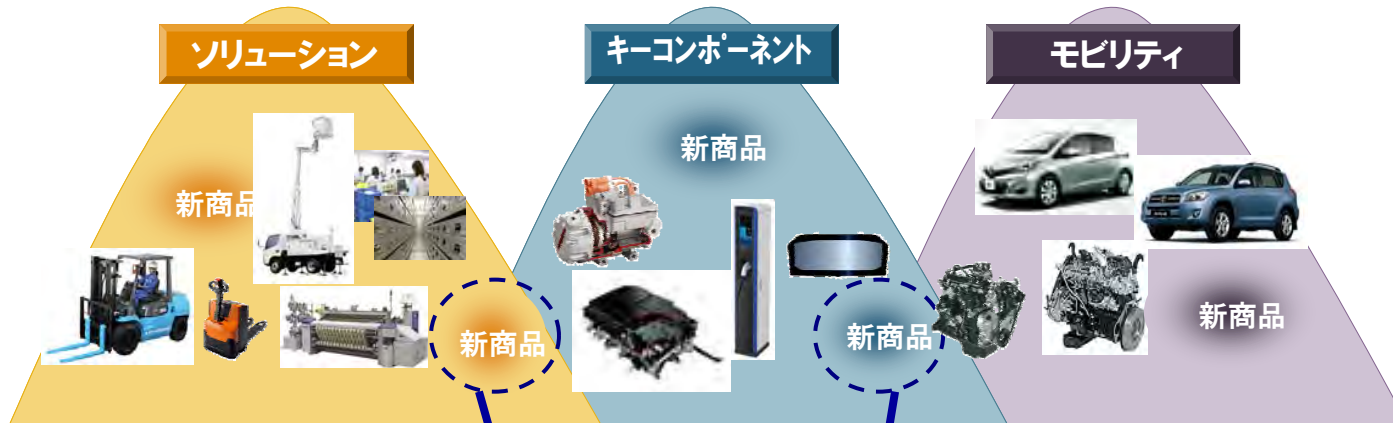
当社の対応

- ・低燃費、低コストで競争力のある産業用エンジンの開発
- ・最適な生産・販売・サービス体制の構築

各事業が持つ技術を融合

物流EV 「e-Porter」を開発

各事業ユニットが持つ技術を活かし、新しい商品を開発



各事業が持つ技術を融合

物流EV「e-Porter」を開発

スマートモビリティ社会の物流効率化とCO2排出量削減に貢献

3Eをキーワードに、事業部門の枠を越えて **省エネ・電動化・軽量化**の技術を融合

省エネ

電動化

軽量化



新開発 EV用パワートレインユニット

EV専用のプラットフォーム開発による合理的な構造

車載充電器

DC-DCコンバーター

電動コンプレッサー

IV. 決算詳細

業績

2012年3月期 実績

(単位:億円)

	11/3期	12/3期	増減	増減率
売上高	14,798	15,433	635	4.3%
営業利益	687	700	13	1.9%
経常利益	739	808	69	9.4%
当期純利益	472	585	113	24.1%
1株当たり 当期純利益	151円51銭	188円02銭	36円51銭	-
1株当たり配当金 (うち期末)	50円 (25円)	50円 (25円)	- -	- -
配当性向	33.0%	26.6%	-	-
設備投資	382	584	202	52.7%
減価償却費	623	598	▲ 25	▲ 4.1%

為替レート

U S \$	86円	79円	▲ 7円	-
ユ ー ロ	113円	109円	▲ 4円	-

業績

2012年3月期 実績

(単位:億円)

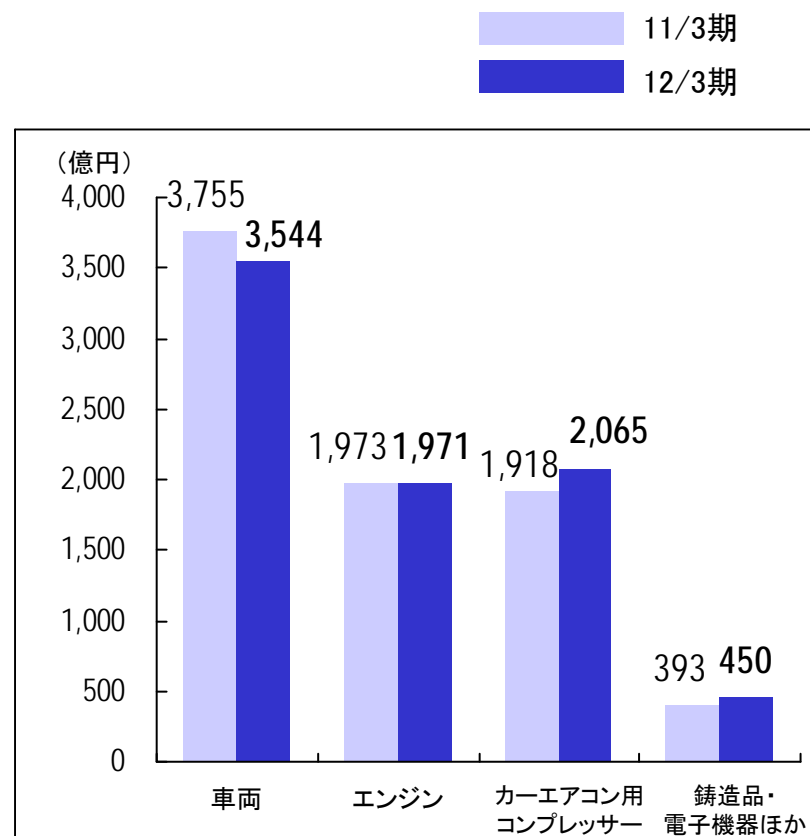
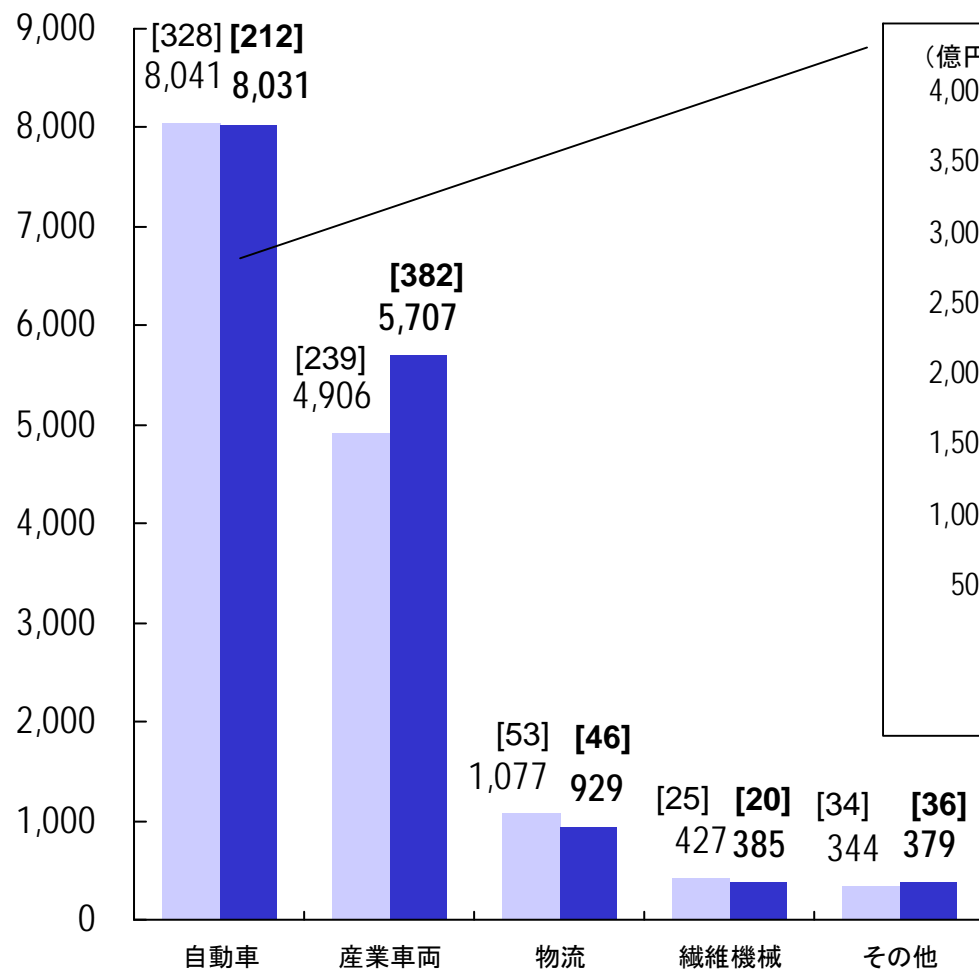
	11/3期末	12/3期末	増減	増減率
総資産	24,814	26,569	1,755	7.1%
純資産	10,759	11,978	1,219	11.3%
1株当たり 純資産	3,300円17銭	3,662円26銭	362円09銭	-
自己資本比率	41.4%	43.0%	-	-
連結子会社数	162社	176社	14社	-

セグメント情報

2012年3月期 実績

◆ 売上高

(億円) []内は営業利益



販売台数

2012年3月期 実績/2013年3月期 予想

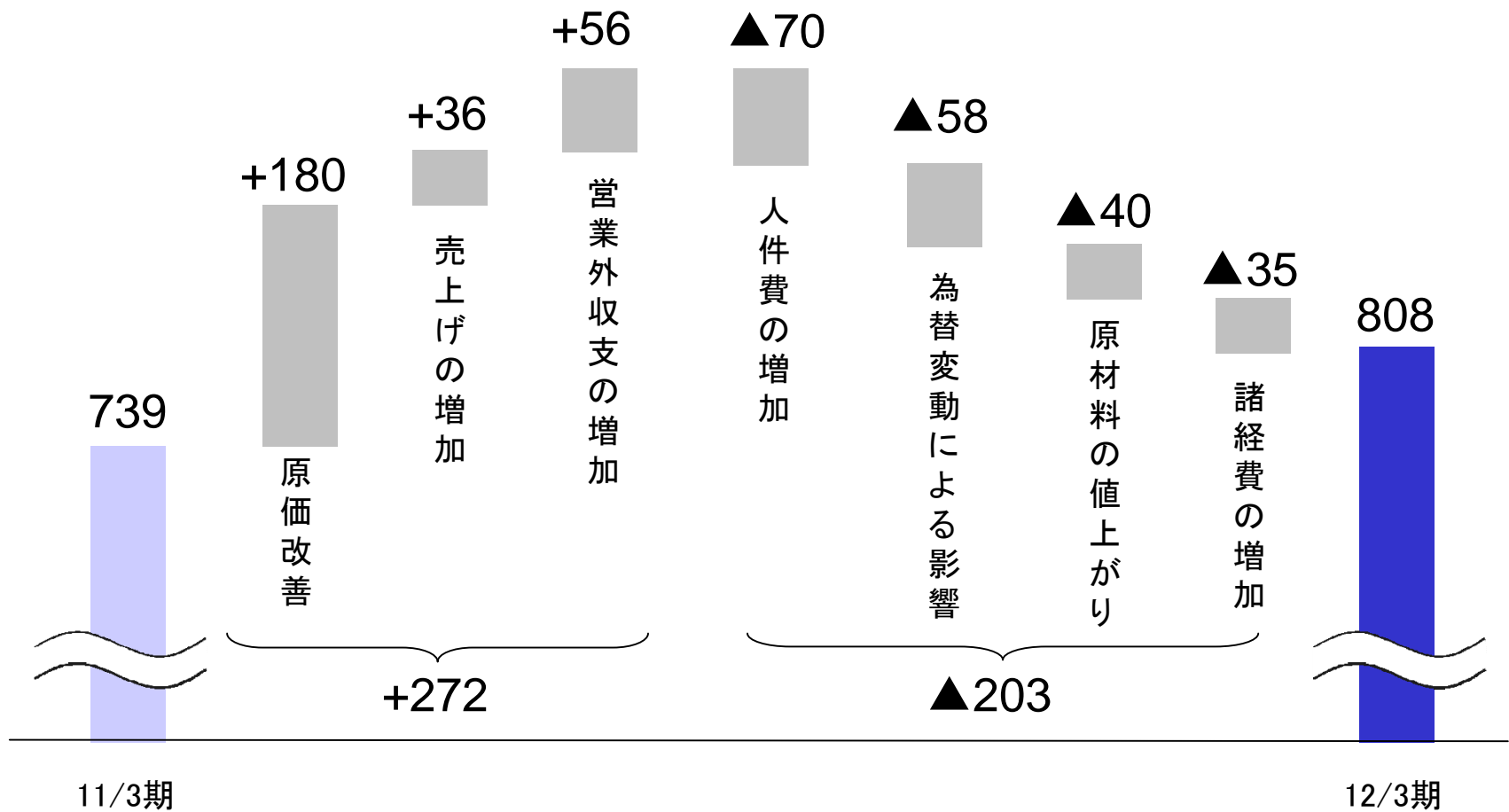
(単位:千台)

	11/3期	12/3期	増減	13/3期	対前年増減
ヴェッツ	181	180	▲ 1	150	▲30
RAV4	109	93	▲16	121	28
マークXジオ	5	5	0	4	▲ 1
車両 計	295	278	▲17	275	▲ 3
ディーゼル	382	397	15	425	28
ガソリン	232	213	▲19	225	12
エンジン 計	614	610	▲ 4	650	40
カーエアコン用 コンプレッサー	万台 1,883	万台 2,155	万台 272	万台 2,500	万台 345
産業車両	153	184	31	195	11
エアジェット織機	7.2	5.2	▲2.0	4.5	▲0.7

経常利益の増減要因

2012年3月期 実績

(単位: 億円)



業績

2013年3月期 予想

(単位:億円)

	12/3期	13/3期	増減	増減率
売上高	15,433	16,500	1,067	6.9%
営業利益	700	850	150	21.3%
経常利益	808	930	122	15.0%
当期純利益	585	590	5	0.7%
1株当たり 当期純利益	188円02銭	189円29銭	1円27銭	-
1株当たり配当金 (うち期末)	50円 (25円)	55円 (30円)	5円 (5円)	- -
配当性向	26.6%	29.1%	-	-
設備投資	584	1,000	416	71.2%
減価償却費	598	620	22	3.6%

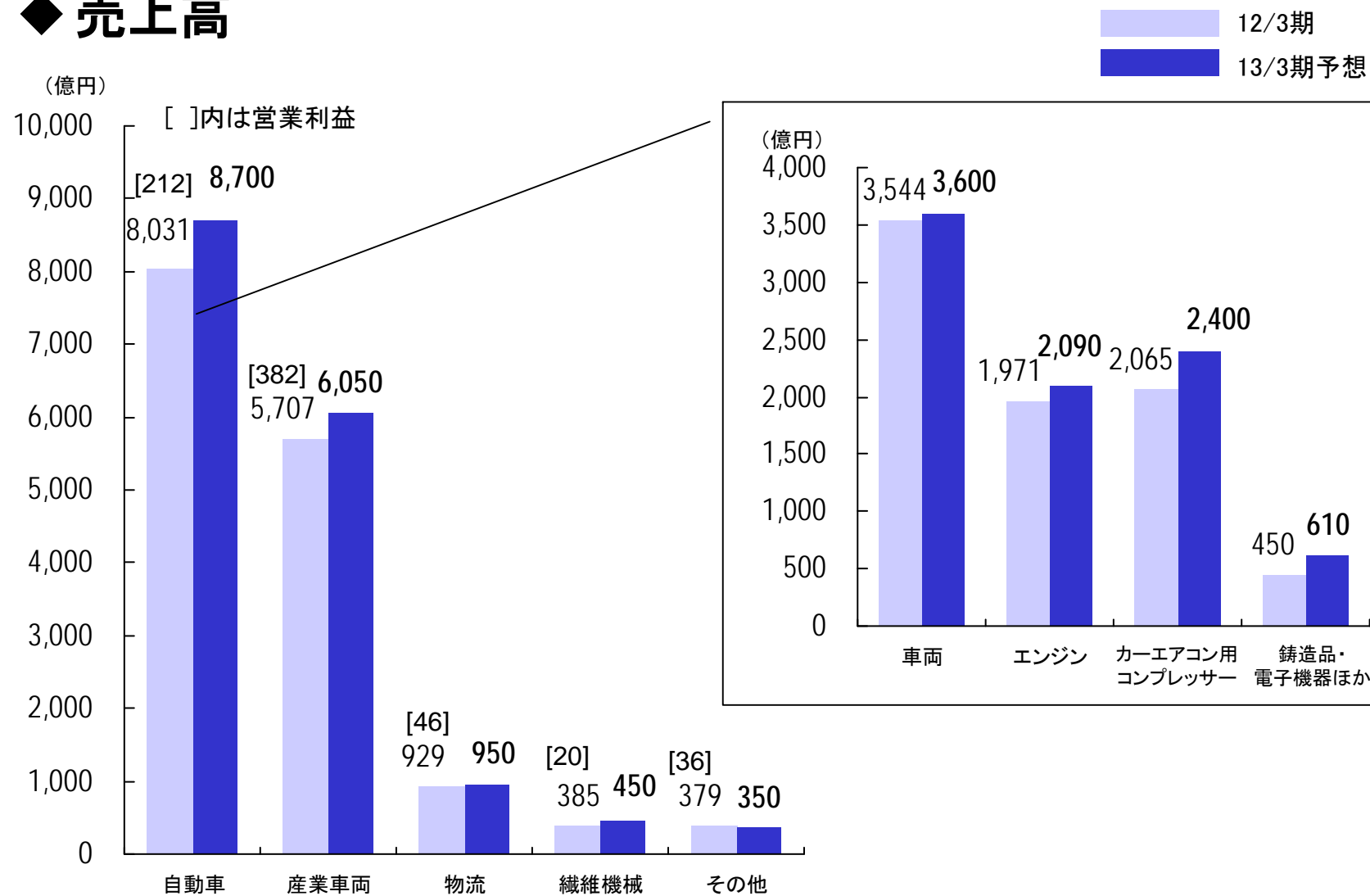
為替レート

U S \$	79円	80円	1円	-
ユ ー ロ	109円	105円	▲ 4円	-

セグメント情報

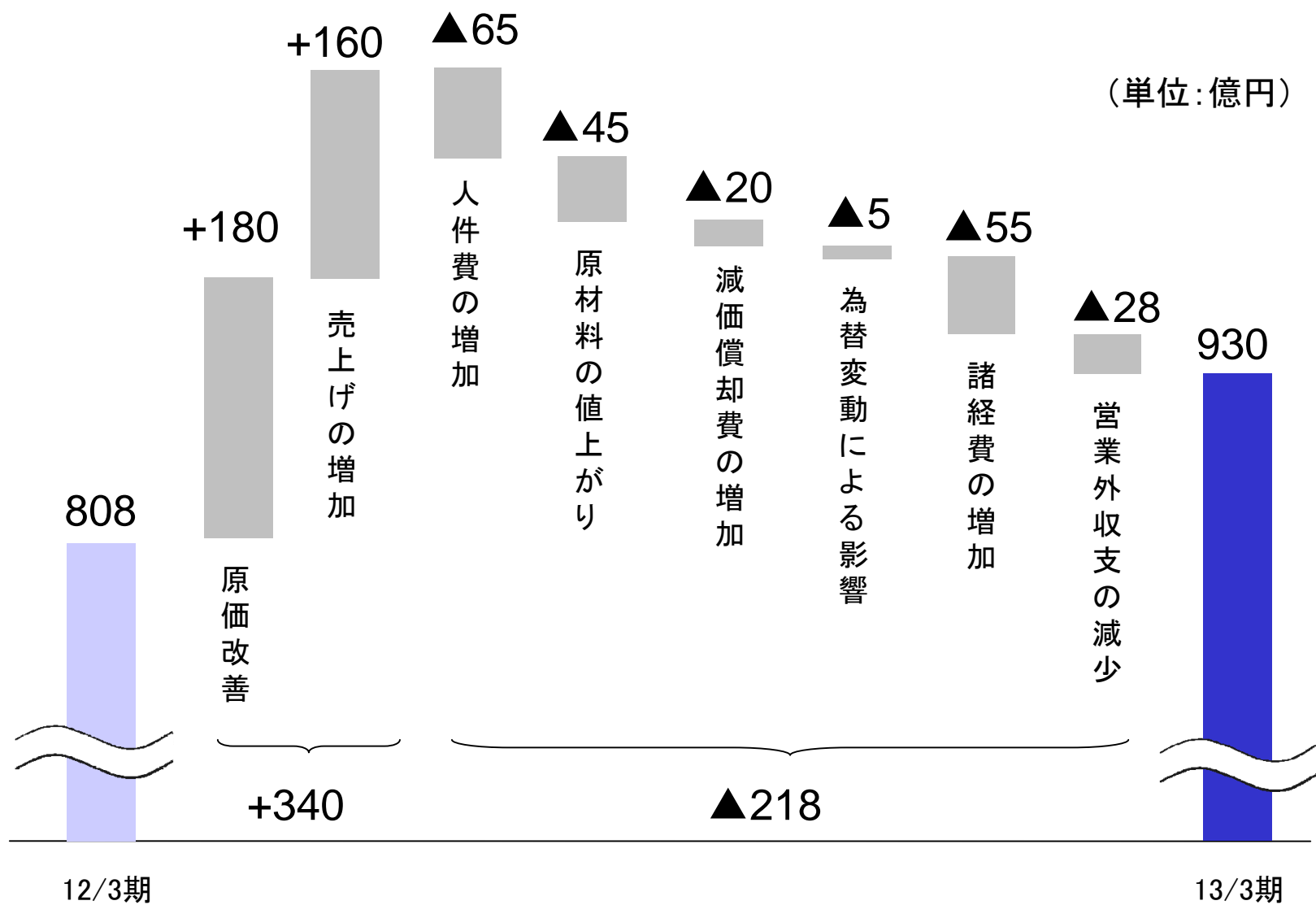
2013年3月期 予想

◆ 売上高



経常利益の増減要因

2013年3月期 予想



将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみで全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。

実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。

ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。